【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成19年7月12日(2007.7.12)

【公開番号】特開2006-228725(P2006-228725A)
【公開日】平成18年8月31日(2006.8.31)
【年通号数】公開・登録公報2006-034
【出願番号】特願2006-31874(P2006-31874)
【国際特許分類】
　Ｈ０５Ｂ　41/24　　(2006.01)
【ＦＩ】
　Ｈ０５Ｂ　41/24　　Ｆ

【手続補正書】
【提出日】平成19年5月25日(2007.5.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　少なくとも第一の電極及び第二の電極を備えてなる冷陰極平面蛍光灯（ＣＣＦＦＬ）の駆動方法であって、
　（ａ）前記第二の電極の電圧を参考電圧として前記第一の電極の電圧をリフトするステップと、
　（ｂ）一時間間隔内においてリフトされた前記第一の電極の電圧を維持するステップと、
を備えてなることを特徴とする駆動方法。
【請求項２】
　前記駆動方法はさらに、
　（ｃ）少なくとも一回ステップ（ａ）及び（ｂ）を重複して前記第一の電極の電圧を一電圧極値に達しさせるステップと、
　（ｄ）前記速度で前記第一の電極の電圧を降下するステップと、
　（ｅ）前記時間間隔内において前記第一の電極の電圧を維持するステップと、
　（ｆ）少なくとも一回ステップ（ｄ）及び（ｅ）を重複して前記第一の電極の電圧を原電圧レベルに回復させるステップと、
　（ｇ）前記第一の電極の電圧を参考電圧として、ステップ（ｂ）～（ｆ）の方式で前記第二の電極の電圧をリフトして該第一の電圧極値に達した後、再度原電圧レベルに回復させるステップと、
を備えてなることを特徴とする請求項１記載の駆動方法。
【請求項３】
　前記速度は、９．３ボルト／ミリセコンド以上であり、
　前記時間間隔は、０．３マイクロセコンド以上であり、及び／又は、
　前記電圧極値は、２０００ボルトである、
ことを特徴とする請求項２記載の駆動方法。
【請求項４】
　前記ステップ（ｃ）は更に電圧差で前記電圧極値をリフトするステップを備え、
　前記電圧差は５０ボルト以上、且つ２００ボルト以下であり、及び／又は、
　前記冷陰極平面蛍光灯の駆動周波数は一周波数値付近の増減範囲内に制御され、これに

より該冷陰極平面蛍光灯を駆動し、該周波数値は３０キロヘルツ以上、且つ９０キロヘルツ以下であり、前記増減範囲は３キロヘルツ以上、且つ５キロヘルツ以下である、
ことを特徴とする請求項２記載の駆動方法。
【請求項５】
前記駆動方法は更に、前記冷陰極平面蛍光灯に含まれた電極の電圧起動及び不起動の時間効率（ｄｕｔｙ）を制御することにより、該冷陰極平面蛍光灯の光出力を調整するステップを備えることを特徴とする請求項２記載の駆動方法。
【請求項６】
少なくとも第一の電極及び第二の電極を有するランプと、
その片側が前記第一の電極及び第二の電極にカップリングした変圧器と、
前記変圧器の他側にカップリングして、請求項1の駆動方法に基づいて該変圧器を介して前記ランプを駆動するフル・ブリッジ回路と、
を備えてなることを特徴とする冷陰極平面蛍光灯。
【請求項７】
前記変圧器は、共振インダクタンス及びキャパシティを介して該変圧器にカップシングすることを特徴とする請求項６に記載の冷陰極平面蛍光灯。
【請求項８】
前記フル・ブリッジ回路は更に入力電圧にカップシングされており、
前記フル・ブリッジ回路はモス（ＭＯＳ）電界効果トランジスタにより構成され、
前記フル・ブリッジ回路は前記ランプの駆動周波数を周波数値付近の増減範囲内に制御して、該ランプを駆動し、及び／又は、
前記フル・ブリッジ回路は前記ランプに含まれた該電極の電圧起動及び不起動の時間効率（ｄｕｔｙ）を制御して、該ランプの光出力を調整する、
ことを特徴とする請求項７記載の冷陰極平面蛍光灯。